

科目名 Subject Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
保育内容言葉 Content of childcare (language)		2年	後期	火曜日・3時限
単位数	授業の形態		授業の性格	
1単位	演習		選択 (保育士養成課程必修・教職課程必修 (幼稚園教諭二種))	
当該科目の理解を促すために受講することが望まれる科目				
幼児心理学				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
保育士資格・幼稚園教諭免許取得に必要な科目				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
大塚登	本館2階	火・水・木・金の9時から17時		授業中に指示します
授業の概要				
乳幼児の言葉の特徴や発達について理解し、「聞くこと・話すこと」の基礎的な力をほぐくむためには保育者ほどのように支援したらよいか、言葉がけや環境設定、児童文化財についての理解を深めることを目的とする				
授業の到達目標				
①子どもの言葉をより豊かにするために、乳幼児の言語発達を理解し、発達段階ふさわしい言葉がけや環境設定について理解できるようにする。具体的には保育実習・教育実習での保育者の言葉がけを振り返り、共有化する。 ②児童文化財の選択・提示法について演習し、実践的な指導力を身に付けることができるようにする。				
授業の方法				
言語発達理解では授業者の講義が中心で、発達段階にふさわしい言葉がけでは実習を振り返っての発表をして情報を共有する、児童文化財では絵本などの読み聞かせを行う。学生は4, 5, 6, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15回目の授業のいずれかで全員が発表を行う。				
学習の成果				
①乳幼児の言語発達について理解することができる。 ②保育の場で実践されている環境設定や言葉がけの意味について、発達段階を念頭に理解することができる。 ③集団での絵本の読み聞かせなどをするときの留意点が理解することができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス (授業内容の説明、評価法など) 保育所保育指針と幼稚園教育要領における領域「言葉」			
第2回目	子どもの発達と言葉の発達Ⅰ (胎児からおおむね始語まで)			
第3回目	子どもの発達と言葉の発達Ⅱ (始語から6歳)			
第4回目	実習を振り返ってⅠ (保育園や幼稚園では保育士はどのように「言葉がけ」をしていたか、子どもが「聞く」工夫をしていたか発表する)			
第5回目	実習を振り返ってⅡ (保育園や幼稚園では子どもが言葉を「話す」工夫のどのようにをしていたか発表する)			
第6回目	実習を振り返ってⅢ (保育園や幼稚園ではどのような環境構成をしていたか言葉の発達を促す観点から発表する)			

第7回目	児童文化財の理解Ⅰ (読み聞かせのための指導案を作成する)		
第8回目	児童文化財の理解Ⅱ (さまざまな言葉遊びを調べ発表する)		
第9回目	児童文化財の理解Ⅲ (指導案に基づいた絵本の読み聞かせ)		
第10回目	児童文化財の理解Ⅳ (指導案に基づいた絵本の読み聞かせ)		
第11回目	児童文化財の理解Ⅴ (指導案に基づいた絵本の読み聞かせ)		
第12回目	児童文化財の理解Ⅵ (指導案に基づいた絵本の読み聞かせ)		
第13回目	児童文化財の理解Ⅶ (指導案に基づいた絵本の読み聞かせ)		
第14回目	児童文化財の理解Ⅷ (指導案に基づいた絵本の読み聞かせ)		
第15回目	児童文化財の理解Ⅸ (指導案に基づいた絵本の読み聞かせ)		
成績評価の方法と基準			
評価の領域		割合	評価の基準
授業参加態度	15%	通常の授業参加態度 (自分の考えをまとめて述べる) であれば、各回1点を与えます。1点×15回=15点	
レポート	15%	読み聞かせのための「指導案」の作成	
調査報告書	10%	「実習を振り返って」をまとめて提出。教育実習または保育実習のいずれかで記録しておいてください。	
小テスト			
中間・学期末試験			
発表内容 (態度含む)	10%	第4, 5, 6, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15回目の授業のどこかで必ず1回は発表します。声の大きさ、見易さ、分かりやすさを心掛けて発表してください。	
その他	50%	各学生の発表に対し、感想、講評を書いてもらいます。	
教科書と参考図書			
保育所保育指針 (平成20年告示) 幼稚園教育要領 (平成20年告示)			
履修上の心得・ルール			
他者の発表にときの傾聴態度をマナーとして心掛けてください。			